

## 6 優秀研究業績全国水産試験場長会会長賞表彰

平成23年度全国水産試験場長会会長賞表彰業績

### ○貝食性巻貝サキグロタマツメタ防除型漁場の造成に関する研究

宮城県水産技術総合センター  
貝食性巻貝サキグロタマツメタ防除型漁場の造成  
に関する研究グループ  
代表 気仙沼水産試験場 場長 酒井敬一

### ○有明海におけるトラフグの放流技術と放流効果に関する研究

長崎県総合水産試験場  
漁業資源部栽培漁業科 科長 松村靖治

### ○擬卵およびドライアイスを用いたカワウ繁殖抑制技術の開発

山梨県水産技術センター  
研究員 坪井潤一

## 1) 審査委員長経過報告・講評

企画担当副会長をしております北海道の鳥澤です。

平成23年度全国水産試験場長会優秀研究業績表彰候補として、3ブロックより推薦された3業績について、表彰審査委員会を開催して審査しましたので、その結果をご報告いたします。

全国水産試験場長会優秀研究業績表彰規定に基づき、平成23年9月21日、東京都島しょ農林水産総合センター会議室において、表彰審査委員会を開催いたしました。

審査委員会では、当該推薦ブロック幹事から、それぞれ推薦書並びにプレゼンテーションに基づき、各研究業績の内容並びに推薦理由が説明されました。

それにを基に、全国のブロック幹事から選出された審査委員長を含む6名の審査委員により審査を行いました。

まず、海面部会東北ブロックより推薦のありました、代表者 気仙沼水産試験場 <sup>さかいけいいち</sup>酒井啓一場長をはじめとする、宮城県水産技術総合センター研究グループによる「貝食性巻貝サキグロタマツメタ防除型漁場の造成に関する研究」です。

大陸産アサリ種苗に混入して全国に拡散したと考えられる、貝食性巻貝であるサキグロタマツメタは、宮城県で爆発的な繁殖が確認され、アサリに対する食害が大きな問題となっております。本研究では、アサリは潜砂できるが、サキグロタマツメタは潜砂できない底質粒径を明らかにし、それを利用して粉碎カキ殻を混合したサキグロタマツメタ防除型漁場造成を考案しました。併せてサキグロタマツメタの生態も調べ、効果的な駆除方法も明らかにしました。これらの成果は、震災により大きな被害を受けた東北沿岸においても、サキグロタマツメタに対するアサリ漁場の保全や造成に役立つ、大きな業績であると高く評価されました。

つぎに、海面部会九州・山口ブロックより推薦のありました、長崎県総合水産試験場漁業資源部 <sup>まつむらやすはる</sup>松村靖治栽培漁業科長による「有明海におけるトラフグの放流技術と放流効果に関する研究」です。

本研究では、トラフグ放流稚魚の標識放流方法として、耳石標識法と胸鰭切除法を併用するこ

とが有効であることを明らかにした上で、効果的な放流種苗の放流サイズや尾鰭欠損度合いを指標にした健苗性、さらに放流適地などを明らかにしました。その上で、これらの成果を生かした最適種苗放流方法に基づいて、長崎県における平成16年度からの50万尾種苗放流事業を実施することによって、外海域と有明海で約76トン、2億5千万円の累積効果を得ることができました。この業績は、さらに広域的かつ効果的なトラフグ資源培養の取り組みに、現在も大きく貢献しているとして、高く評価されました。

最後に、内水面関東・甲信越ブロックより推薦のありました、山梨県水産技術センター坪井潤一<sup>つぼい</sup> <sup>じゅんいち</sup> 研究員による「擬卵およびドライアイスを用いたカワウ繁殖抑制技術の開発」です。

大型の魚食性鳥類であるカワウの、アユなどの有用水産資源へ与える被害は、全国的に重大化かつ深刻化しています。本研究では、従来からある擬卵の置き換え方法に加え、ドライアイスによる卵発生停止方法を併用し、従来法より作業が大きく軽減できる効果的な繁殖抑制方法を開発しました。本研究により開発された方法は、繁殖作業に要する作業日数を、約半減させることができるようになったこともあり、新潟県、広島県、島根県でも採用されたほか、その他にも導入を検討している自治体も多くみられ、その業績は高く評価されました。

以上のとおり3つの研究業績は、いずれもその研究成果のみならず、今後の地域の水産業や水産試験研究の発展に大きく寄与する門として高く評価され、平成23年度全国水産試験場長会優秀研究業績として表彰することが決定されました。

## 2) 会長賞表彰式

増田会長より各受賞者に対して、それぞれ表彰状が授与された。



さかい まつむら つぼい  
左から酒井場長、松村科長、坪井研究員